

ジェームズ・クインシー

コカ・コーラ会長

バフェット氏も評価した 強いブランド力と収益力

1892年に創業された米コカ・コーラは、世界最大級の飲料メーカーとして知られている。同社の株は著名投資家のバフェット氏が1980年代から長期投資を続け、最も成功した銘柄の1つとしても有名だ。64年連続増配（2026年時点）を達成するなど、安定した配当に魅力を覚える投資家も多い。

一方で同社は、2010年代からは消費者の健康志向の高まりとともに「炭酸飲料離れ」が進んだことで成長が鈍化。こうした課題に取り組み、経営の立て直しを図ったのがCEO兼会長として同社を率いてきたジェームズ・クインシー氏だ。2025年通期の同社の売上高は約480億米ドル。2017年通期比で3割を超す増収を果たしている。



コカ・コーラは現在、世界200以上の国・地域で事業を展開

1965年、英国ロンドンに生まれたクインシー氏は英リバプール大学を卒業後、戦略系コンサルティング会社を経て、1996年にコカ・コーラに入社する。サウスラテン部門、メキシコ部門、欧州部門など主要な地域の社長を歴任。合併・買収や事業統合などで辣腕を振るった。2017年に同社CEOに就任、2019年からは会長を兼務した。

事業の再構築と 企業文化の変革に注力

クインシー氏が力を注いだのが「経営の効率化」と「商品の多角化」による事業の再構築だ。前者で特に注目されるのが、自社で行っていたボトリング事業の外部委託。本社がブランド戦略や商品開発へ集中できる体制を整え、資本効率の向上を図った。「商品の多角化」については、機能性飲料やミネラルウォーター市場などに積極参入。売上高10億米ドル以上のブランドを10種類以上増やし、同社を「総合飲料企業」へと進化させた。

とはいえ、クインシー氏が最も心を砕いたのは、同社の企業文化の変革だったかもしれない。CEO就任当初に発したメッセージは、「イノベーションのための失敗を恐れてはならない」。伝統企業にありがちな「完璧主義による意思決定の遅れ」を戒め、迅速・機敏に行動できる文化の醸成に力を尽くした。

そんなクインシー氏は2026年3月末でCEOを退任、現在は会長職に。CEOを引き継いだのは、COO（最高執行責任者）として全世界の事業を統括してきたエンリケ・ブラウン氏。クインシー氏による変革をどう発展させるか、その手腕にも要注目だ。



ペットボトルのリサイクルもクインシー氏が注力した事業の1つ

「炭酸飲料企業」から「総合飲料企業」へ
ブランドの多角化で新たな成長軌道描く

Profile ジェームズ・クインシー 1965年、英国ロンドン出身。1996年に米コカ・コーラ入社。2005年、同社メキシコ部門の社長としてジュース会社 Jugos del Valle の買収に尽力した他、北西ヨーロッパ・北欧事業トップ時には、健康飲料会社イノセントの買収を手掛け、英国におけるプレゼンスの向上に貢献。2017年、CEOに就任し、経営改革を主導した。

写真: AP/アフロ、AFP/アフロ

主な参考文献: コカ・コーラ社オフィシャルサイト、日本経済新聞、食品新聞ほか